【基本情報】

展覧会名：無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ― 窪島誠一郎の眼

会　　期：令和 6（2024）年 10 月 12 日（土）～12 月 15 日（日）

会　　場：静岡県立美術館（静岡市駿河区谷田 53-2）

休 館 日：毎週月曜日　ただし、10 月 14 日（月・祝）、11 月 4 日（月・振替休日）は開館、翌日休館

開館時間：10:00～17:30（展示室への入室は 17 時まで）

観 覧 料：一般 1,200 円（1,000 円）、70 歳以上 600 円（500 円）、大学生以下無料
※（　）内は前売および 20 名以上の団体料金。
※収蔵品展、ロダン館もあわせてご覧いただけます。
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者 1 名は無料。

主催：静岡県立美術館　**特別協力**：一般財団法人戦没画学生慰霊美術館無言館　**協力**：長野県立美術館

特別協賛：株式会社アイワホールディングス、株式会社アイエイアイ

協賛：鈴与株式会社、はごろもフーズ株式会社

【概　要】

窪島誠一郎（1941–）という稀有な目利きによって実現したふたつの美術館、〈信濃デッサン館〉と〈無言館〉のつながりに目を向ける初めての展覧会です。

1997 年、信州上田に〈無言館〉が誕生しました。戦争で帰らぬ人となった画学生たちが遺した絵や彫刻を集めた美術館です。どれも未熟ではあっても、遺族によって大切に守られてきたものばかりでした。訪れる者は、遺作を通して、彼らを死なせた戦争と向き合うことになります。

無言館館主・窪島誠一郎がこの地を選んだのは、すでに 1979 年に、独力で〈信濃デッサン館〉を建設していたからです。その名のとおり、村山槐多、関根正二、野田英夫ら夭折の画家のデッサンを中心としたコレクションでした。しかし、2018 年に惜しくも閉館、コレクションは長野県に譲り渡されました。

〈信濃デッサン館〉なくして、〈無言館〉はありませんでした。病と戦争という違いはあっても、人生半ばで世を去った彼らは最期まで絵筆を手放さず、絵を描きたいという思いを共有しています。人はなぜ絵を描くのか、その情熱、魂にふれていただく展覧会です。

【このプレスリリースに関するお問合せ】
静岡県立美術館　企画総務課　後藤　Tel. 054-263-5755　Fax.054-263-5767
学芸課　喜多　Tel. 054-263-5857　Fax.054-263-5742
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2

【展覧会構成】

■序章〈自画像〉

展覧会は、みなさんが戦没画学生たちの自画像と向き合うところから始まります。自画像とは、最期まで絵を描こうとした画学生たちが自分自身を見つめた痕跡です。そこに、信濃デッサン館旧蔵の関根正二の自画像を添え、夭折の画家たちを集めたふたつの美術館へとご案内します。

左から：図 1　関根正二《自画像》1916 年｜インク・紙｜長野県立美術館蔵（信濃デッサン館コレクション）　図 2 原田新《自画像》1936 年｜油彩・キャンバス｜無言館蔵　図 3 久保克彦《自画像》制作年不詳｜水彩・紙｜無言館蔵　図 4 伊藤文雄《自画像》制作年不詳｜油彩・板｜無言館蔵

左から：図 5 桑田一彦《(自画像)》1940 年｜油彩・キャンバス｜無言館蔵　図 6 渡辺武《自画像》制作年不詳｜油彩・キャンバス｜無言館蔵　図 7 五十嵐弘《自画像》1933 年｜油彩・キャンバス｜無言館蔵

■第 1 室〈遺された絵と言葉〉

たとえ未熟で描きかけの絵であっても、それらは絵と向き合う凝縮された時間の中から生まれたものばかりです。ふたりの画学生（関口清、佐藤孝）を収めた戦没学生遺稿集『きけわだつみのこえ』も紹介します。

■第 2 室〈無言館の誕生〉

無言館の誕生に至る道をたどります。出発点は画家 野見山暁治の遺族訪問から生まれた一冊の『祈りの画集』（1977 年刊行）でした。野見山の戦中・戦後の画業を振り返るとともに、無言館とは何かを考える部屋です。

■第３室〈最期まで描こうとしたもの〉

家族や恋人の姿、裸体画、身近な風景など、画学生が美術学校や故郷を離れるまで取り組んだ絵が並びます。一糸まとわぬ人間の裸体と向き合い、その姿を描くことは、軍服に身を包む兵隊生活の対極にあったはずです。

図８ 中村良明《きょうだい》制作年不詳
｜油彩・キャンバス｜無言館蔵

図９ 伊勢正三《数寄屋橋界隈》制作年不詳
｜油彩・キャンバス｜無言館蔵

■第４室〈静岡出身戦没画学生〉

静岡県ゆかりの５人の画学生（佐藤孝、野末恒三、中村萬平、桑原喜八郎、曽宮俊一）の足跡を紹介します。

■第５室〈戦争と向き合う〉

すでに大家であった従軍画家（藤田嗣治、小磯良平）から兵士として死んだ画家（靉光）、戦地でなお絵筆を持った画学生（日高安典、椎野修）など、さまざまな戦争体験がさまざまな絵を生み出しました。戦地と故郷の家族や友人との間をつないだスケッチ入りの軍事郵便も紹介します。

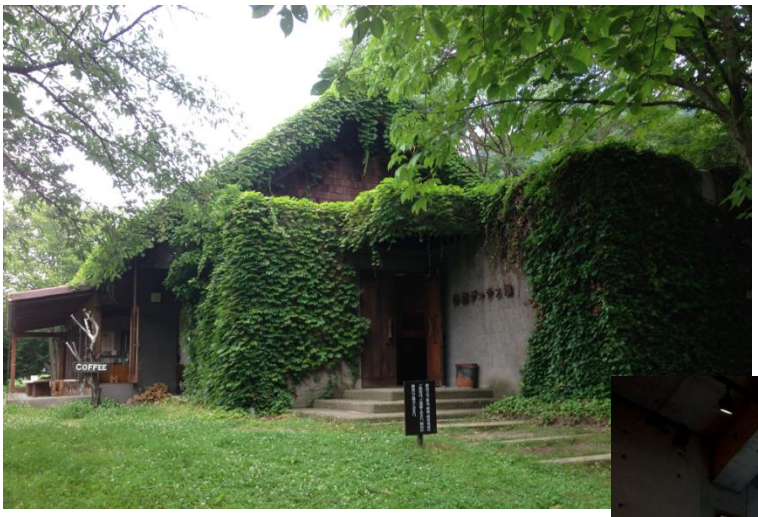
図 10 中村萬平《霜子》制作年不詳
｜油彩・キャンバス｜無言館蔵

図 11 靉光《眼のある風景》1938 年｜油彩・キャンバス
｜東京国立近代美術館蔵

■第 6 室〈窪島誠一郎の眼〉

東京にキッド・アイラック・ホールを開設、雑誌『デフォルマシオン』を刊行するなど、窪島誠一郎の 1960 年代の旺盛な活動から、信濃デッサン館へと至る足跡をたどります。そして、デッサン館開館時の展示を 8 人の画家（村山槐多、関根正二、野田英夫、松本竣介、戸張孤雁、吉岡憲、広幡憲、古茂田守介）で再現します。

図 12 村山槐多《猫を抱ける裸婦》1916 年｜木炭・紙｜長野県立美術館蔵（信濃デッサン館コレクション）



信濃デッサン館（1979 年開館）

無言館（1997 年開館）

【コーポレーション・デイ（観覧無料日）】

10 月 16 日（水）は、株式会社アイワホールディングスのご協賛により、観覧料が無料となります。

【関連イベント】

■開幕記念講演会「絵好き・絵狂い・絵蒐（あつ）め」

講師：窪島誠一郎氏（無言館館主、旧信濃デッサン館館主）
日時：10/12（土）14:00～15:30
会場：当館講堂　※申込不要、本展観覧券半券が必要です。

■講演会「あなたなら、どんな自画像を描きますか？」

講師：森村泰昌氏（美術家）
日時：10/19（土）14:00～15:30
会場：当館講堂　※申込不要、本展観覧券半券が必要です。

株式会社アイエイアイ プレゼンツ

■対談「ふたつ美術館をつくった話」

講師：窪島誠一郎氏（無言館館主、旧信濃デッサン館館主）、檀ふみ氏（俳優）
日時：10/26（土）14:00～15:30
会場：当館講堂
※要事前申込・全席指定・抽選、本展観覧券半券が必要です。定員等の詳細や申込方法は、約 1 か月前に当館ウェブサイトにてお知らせします。

株式会社アイワホールディングス プレゼンツ

■演奏会「天満敦子ソロ・コンサート」

講師：天満敦子氏（ヴァイオリニスト）
日時：10/27（日）14:00～15:00
会場：当館講堂
※要事前申込・全席指定・抽選、本展観覧券半券が必要です。定員等の詳細や申込方法は、約 1 か月前に当館ウェブサイトにてお知らせします。

■対談「戦争と食ー関口清『夢の落書帳』をひもとく」

講師：荒俣宏氏（作家）、木下直之（当館館長）
日時：11/9（土）14:00～15:30
会場：当館講堂　※申込不要、本展観覧券半券が必要です。

【関連イベント】

■館長美術講座スペシャル鼎（てい）談「お手伝いは見た、窪島誠一郎とは誰か」

講師：窪島誠一郎氏（無言館館主、旧信濃デッサン館館主）、
　　原田光氏（無言館館主お手伝い、元岩手県立美術館館長）、木下直之（当館館長）
日時：11/17（日）14:00～16:00
会場：当館講堂　※申込不要、本展観覧券半券が必要です。

■映画上演会

SBC スペシャル番組「生ききる」（60 分）
森内康博監督「二十歳の無言館」（120 分）
日時：10/20（日）13:00～16:15、11/16（土）13:00～16:15
会場：当館講堂
※申込不要、10 月 20 日は「生ききる」から、11 月 16 日は「二十歳の無言館」から
　上映予定。

■担当学芸員によるフロアレクチャー

日時：11/8（金）、12/6（金）いずれも 14:00～14:40
集合場所：第 1 展示室（要観覧券）

■わくわくアトリエ

日時：12/8（日）
対象：小学生以上
会場：実技室
※要申込・要観覧券。定員等ワークショップの詳細や申込方法は、１か月前に当館ウェブサイト
　または館内配架チラシでお知らせします。

■実技講座

日時：11/30（土）、12/1（日）
対象：中学生以上
会場：実技室
※要申込・要観覧券。定員等の詳細や申込方法は、１か月前に当館ウェブサイトまたは
　館内配架チラシでお知らせします。

【ご利用案内】

交通案内

・JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約 6 分

・JR「静岡駅」南口からタクシーで約 20 分、または北口から静鉄バスで約 30 分

・JR「東静岡駅」南口からタクシーで約 15 分、または静鉄バスで約 20 分

・静岡鉄道「県立美術館前駅」から徒歩で約 15 分、または静鉄バスで約 3 分

・東名高速道路・静岡ＩＣ、清水ＩＣから約 25 分、日本平久能山スマートＩＣから約 15 分

・新東名高速道路・新静岡ＩＣから約 25 分

ウェブサイト

https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp

お問合せ先（掲載用）

静岡県立美術館　054-263-5755（代表）

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

無言館と、かつてありし信濃デッサン館 ― 窪島誠一郎の眼

宛先：静岡県立美術館　（担当）企画総務課　後藤　／　学芸課　喜多、植松、貴家、太田　宛
E-mail ：soumuPMA-shizuoka@pref.shizuoka.lg.jp

■　本リリースに掲載されている図1～図 12 を広報用画像としてご提供します。
本票に必要事項をご記入のうえ、上記メールアドレス宛に本票を添付してお申し込みください。

【画像ご使用に際してのお願い】
＊画像データはメールにてお送りします。
＊画像は本展覧会のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
＊使用後のデータは破棄していただきますようお願いいたします。
＊作品キャプションを必ず明記してください。（少なくとも、作者名、《作品名》、所蔵館名）
＊画像への文字載せ、トリミングをする際はご相談ください。
＊基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
＊掲載後、広報担当者まで見本紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願いいたします。

貴社名：　　媒体名：

ご担当者名：　　発行・放送予定日：

TEL：　　発行部数：

FAX：　　定価：

E-mail：　　掲載予定コーナー名等：

URL(ウェブの場合)：

希望する広報用画像：

連絡欄：

◎本展を紹介してくださる媒体には、展覧会の招待券（5組10名様）を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下にご記入ください。

読者プレゼント用招待券を 【 希望する ・しない 】
招待券送付先 【所在地：〒　　】

このプレスリリースに関するお問合せ
静岡県立美術館　企画総務課　後藤　Tel. 054-263-5755　Fax.054-263-5767
学芸課　喜多　Tel. 054-263-5857　Fax.054-263-5742
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2